

Experience 研修情報紹介

令和元年度良質な医師を育てる研修 「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実のプログラムを提供しています。

今回は2019年6月に行われた「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」をご紹介します。

日常的な内科系疾患および症候をはじめ、入院中にしばしば遭遇する「せん妄」など、療養上の問題は、臓器別の専門内科研修ではあまり取り上げられないものです。診療現場でのニーズが高いにもかかわらず、その領域に直接関連したものでなければ副次的に扱われることが多く、系統的な学習の機会がなかなかないのが現状でしょう。

今回の「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」では、国立病院機構各施設の総合内科スタッフがこれまでに蓄積してきた知識と経験を活かして企画しました。すべての病棟、施設で遭遇する可能性の高い問題に、適切に対処するためのスキルを伝授する実践的なプログラムです。よくある症例をもとに、救急搬送、入院、退院に至るまで、1から6までのステップを追いながら臨床の現場に即した構成をねらいました。

一方的な座学ではなく、グループディスカッションでお互いの意見を出し合いながら、理解できるスタイルにしました。クイズ形式の親しみやすい講義を取り入れたのも特徴です。参加者からは楽しく学べたという感想が寄せられました。



参加者の声

参加者の声 1

座学だけでなく実際にロールプレイをしたり、お互いに話し合ったりすることで、他施設の研修医の症例に対する対処法や考え方を理解できました。

参加者の声 2

講師の先生方が非常に熱心で、楽しみながら気づきや学びを数多く得ることができました。年齢の近い全国各地の研修医の先生たちと知り合え、話ができたことも良い経験になりました。

参加者の声 3

普段の業務では気にしていなかったことを改めて見直しました。講義ではなかなか得られない知見が理解でき、とても有意義でした。

参加者の声 4

身体診察の具体的なポイントを学びました。せん妄やポリファーマシーなど、普段あまり気にしていない部分まで考えることができました。

参加者の声 5

遭遇する可能性の高い症例に対して具体的に話し合い、プロブレムリストの作成や診断治療を考える時間を持てたことが貴重でした。

参加者の声 6

ACPやポリファーマシーなど、最近、問題とされている話題について触れる機会が持てました。講義が分かりやすく、とてもためになりました。

参加者の声 7

日常の診察で困ったと感じていたことに対して、今回のセミナーで解消できた点が良かったです。

参加者の声 8

問診でいかに病歴を聴取することが大事かということがよく分かりました。明日から実践してみようと思える技をたくさん学べたのも良かったです。

令和元年度 良質な医師を育てる研修 「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」

対象： 初期研修医、内科系の後期研修医・専攻医・専修医、
卒後10年以内で、総合内科専門医を目指している医師
日時： 令和元年6月27日(木)～28日(金)
会場： 国立病院機構岡山医療センター
参加者： 36名

■ 研修内容

1日目

- ステップ1 発熱で救急外来受診。応答は不明瞭で血圧104 / 62、脈拍102、呼吸回数20どう行動しますか？
レクチャー： 頭と体を総動員しよう
- ステップ2 緊急入院となりましたが、夜間大声を上げて騒いでいます。どう行動しますか？
レクチャー： せん妄のマネジメントについて
- ステップ3 菌血症がありそうです。感染巣の検索と治療プランは？
レクチャー： 発熱の臨床推論、熱源検索、抗菌薬選択の原則など
- ステップ4 経口摂取を開始しましたが、誤嚥性肺炎になりました。どう行動しますか？
レクチャー： 嚥下機能評価と誤嚥性肺炎の治療について

2日目

- 臨床クイズ
- ステップ5 患者さんは誤嚥を繰り返しています。肺炎の治療を続けることが本当に患者さんのためになっているのかどうか自信がなくなりました。どのように考えればよいのでしょうか？
レクチャー： 人生の最終段階での意思決定、ACPなど
- クイズ 解決！臨床現場頻出プロブレム～病棟診療のちょっとした疑問に答える～
- ステップ6 病状は落ち着き退院が決まりそうです。その前に処方を見直すことにしました。どうしますか？
レクチャー： ポリファーマシーについて